

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 21 年 2 月 20 日
事業所名	グループホームなでしこ猪子石原 1
事業所番号	2371501277
記入者名	職名 氏名 川上園美 他 5 名
連絡先電話番号	052-774-6701

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が当たり前の日常生活が送れるように援助する。 「その人らしい尊厳ある生活を大切に」という理念を持っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアカンファレンス、スタッフミーティングでは常に理念を念頭においての話し合いを心がけている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域行事への参加等で住民の方にはそれなりに理解を得られていると思う。 家族会議では理念や方針について理解していただけるよう話しをしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や近隣への買い物の時には挨拶をしている。 回覧板、町費の集金など入居者の方と一緒に出かけ、近所の薬局、理容店、飲食店など定期的に利用している。	○ 当グループホーム主催のイベント（夏祭り、餅つき会など）に参加していただけるように今後も働きかけを続けていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のイベントや、高齢者向けの行事には進んで参加している。 学区内の中学校からのボランティア部来訪が定期的であり、中学生との交流をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症対応型の共同住宅として、日々の暮らしぶりを垣間見て頂く事で、認知症に対する不安感の軽減に繋がらないかと考えているが、それ以上の取り組みはしていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受け、改善点はスタッフミーティング等で話し合い、実行に向け取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方の暮らしぶりや支援状況を報告し、出された意見等をスタッフミーティング等で話し合い、サービス向上に繋げ様としている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な意見交換はしていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前に少し学んだ職員もいるが、優先的に取り組んではない。	○	機会があれば、研修等に参加し知識を得たい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束は行ってはいけないという共通認識がある。それを前提とした上でのケアカンファレンスをしている。	○	ケアカンファレンス、スタッフミーティングでは具体例を出して話し合っているが、更なる職員間での認識を高めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはご家族に対して重要事項の説明を行う。入居後の要望や疑問点に対しては随時理解していただけるよう話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>トラブルを避けるため、事前に理解を得ておいた方が良いと思われることは重点的に伝えたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。入居者が家族に不満苦情の訴えがあった時には家族と情報交換し、より良い解決策を模索している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族来訪時には、毎日の記録を読んでもらっている。毎月発行の『なでしこ通信』でイベント、職員紹介、日頃の暮らしぶりの写真を掲載している。おこずかい預かり金については月ごとの収支を報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時には積極的に声をかけ、思いを聴く努力をしている。 職員はリーダーに報告し、ミーティング等で情報交換し問題解決に努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>経営者、管理者は半年に1回の書面での自己評価と面談で意見や思いを聞く機会を作っている。 管理者、リーダーは日頃の雑談等の中で気軽にいけんをきくどりよくをしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活パターンにあわせたシフト組みをしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット間の移動のリスク軽減の為に外出、イベントなど合同で行う機会を増やして入居者へのダメージを軽減している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人のグループホームとの交換研修や外部研修に参加し、研修内容をミーティング等で報告して共有しレベルアップに取り組んでいる。	○	他のグループホームへの研修や外部の勉強会に参加していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に加入し、研修等に参加することで交流を持つようにしている。運営推進会議は他の事業所の管理者と互いに委員となって出席する事で情報交換による質の向上を図っている。	○	他のグループホームと交換研修をしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リーダーはスタッフの心身状態の把握に努め、相談及び助言を行うと共に上司へ報告しより良い環境づくりに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は勤務状況、姿勢などを把握する為、提出書類に目を通して面談でいけんこうかんをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に本人の生活や生活歴を家族からしっかり情報収集して、入居者の状況を把握し、又本人と話す時間を十分に持ち溶け込めるように支援している。	○ 入居前の住居を訪ね環境等も含め入居前の状況を把握するようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談にみえるまでの経緯や心労を傾聴し、又現在の不安、困惑、要望を受け止める努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の必要としているサービスを見極め的確な支援が出来るようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を取り入れたり又、可能であれば家族の宿泊を勧めて、新環境よる心身の負担が少なくなるように配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症であっても人生の先輩であり、敬う姿勢を忘れず共に過ごす共同生活の中で出来なくなったことを支援し、出来ること、得意なことをどんどん引き出すような支援に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的になでしこ通信を発行したり、行事への誘いなど出来る限りホームでの様子を感じてもらったり、電話や来訪時には情報交換に勤めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族との関係は来訪時に理解するように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前の生活を大切にするためにも、友人、知人、親類縁者の来訪は積極的に受け入れ、又気軽に外出できることも楽しみになるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の仲間として日常生活の役割を持ってもらうことにより皆が支えあって生活していることの理解を促している。相性の合わない方との関係はスタッフ間で情報交換して関係悪化にならないように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	重度化しての入院、死亡などが2名、遠方への転居が1名などで関係は継続していないことが多い。	○	退去後も、賀状やなでしこ通信を送ったりして、施設の様子を伝え、交流を続けて行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に関わる中で本人の気持ちや意向を引き出せるような環境づくりをして本人の思いを引き出しケアプランに反映させている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から生活歴等の情報を得ている。又、入居後にはセンター方式のアセスメントシートを活用して再度家族から詳細な情報をいただいている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別記録、バイタルチェック表、家事やレクへの参加、意欲等の洞察により現状を把握して、スタッフ間の情報交換を大切にしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の本人との関わりや家族との話を念頭に月1回のケアカンファレンスでスタッフ間の意見交換を基にケアプランを作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの評価で大きな変化なくプラン継続でも、家族には了解を得ている。入院や状態変化がある場合はその都度プラン変更をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録を記入後にケアプランチェック表にて実践確認して、月1回のケアカンファレンスでの意見交換に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を生かして緊急時にも医師の指示、訪問看護師との連携を生かしている。家族の協力を得て認知症専門医受診を支援している。訪問マッサージの利用者も多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	『子ども110番の家』の指定を受け地域貢献したり、地域のボランティア来訪や、自治会の組長として毎月の防犯パトロールや行事のお手伝いなどを可能であれば積極的に入居者と一緒に参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	具体的のことはしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的のことはしていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームでの身体・生活状況及び思いを情報提供して次なる生活がスムーズに行えるよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	徹底する努力をしているが配慮に欠ける場合もある。言葉がけはとても難しいが意識は持っている。記録管理は注意している。	○	入居者情報は細心の注意をして申し送るようになる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴、買い物、飲食物の希望を本人が意思表示できるような環境づくりに努めている。	○	入居者が気兼ねなく思いや希望を表現できる環境を強化したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢は提示するが決定権は本人にあるとの前提で出来る限り希望に添うようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	生活に支障がない限りは本人の意向で整容して貰っている。近隣の理容院、又は訪問理容を利用している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむ事ができるよう職員と入居者が一緒に協力しながら食事作りなど準備をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ以外の嗜好品は本人からの希望もなく、『選べるおやつ』を目指している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく失敗を感じさせない介助、又は時間を決めて声かけ、又は誘導するなどをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望には出来る限り対応しているが、1：1の介助の為、時間的な希望には添えない場合もある。	○	入居者のタイミングに合わせてられるように努力したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	長時間に及ばない限りは時間に関係なく自由に休息していただいている。 昼間なるべく身体を動かして夜は安眠になるように配慮している。	○	個々のペースを理解して把握することで支援していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の趣味を活かした『出来る事』をしてもらえる環境づくりをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常なお小遣いは本人が管理できる場合は希望によって自己管理して、希望時には買い物に同行している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に行きたい要望にはすばやく対応している。	○	まだ外出に積極的でない方や困難な方も外の空気に触れる機会を作る。いうがどうなのだろうか
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員では対応できない場所には可能であれば家族の協力を得て実現している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方には居室に主要な電話番号が掲示してあり、自由にかけたいときに利用してもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの方の来訪が何よりの喜びだと捉えているので、どのような時間でも来訪者はなにより優先し歓迎している。	○	来訪したくなる雰囲気意識して居室、トイレ、洗面所、リビング等を背決に保つ。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアカンファレンスやスタッフミーティングで身体拘束に対する正しい知識を共有し研修受講者の得た知識は全体の知識となるよう報告の場を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけておらず、単独外出されようとする場合はさりげなく同行する。反対にトイレは鍵をかけられる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の動きの制限はないが、把握できるように視界を遮る物は極力おかないようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは職員管理だが、残存能力活用のため場合は、見守り、安全確認に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各入居者の目線で考え危険なものは排除している。薬は誤薬がおきない様に数回のチェックをしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル、説明の張り紙などはあるが定期的な訓練は行っていない。	○	全職員が急変時に対応出来るように定期的な訓練を行う必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定し半年に1回程度は避難訓練している。	○	以前は毎月訓練していたが人員不足により頻度が減っているので、早急に復活したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	個々に起こり得るリスクについては家族の来訪時 に情報提供し、対応策に対する意見交換をしてい る。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックと時間ごとの体調確認、 何気ない観察で変化に気付く様にしている。 朝、夕の申し送りで情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解してお り、服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	スタッフにより理解度に程度差があり、ある程度 理解しているが充分とはいえない。	○	少しずつでもいいので薬に対する勉強をスタッフ ミーティングに入れていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体 を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分摂取、食物繊維の粉末、ファイバーゼ リー、体操など排便の促しに繋がるとされるも のは出来る限り取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援 をしている	週2回の義歯洗浄、朝夕の歯磨きの促し、自力で困 難な方には、訪問歯科による口腔ケアと指示によ る歯間ブラシやガーゼを使用している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	生活記録による水分総摂取量や、食事摂取量の確 認、栄養管理台帳による栄養バランスの確認をし ている。各入居者の状態に合わせ、トロミ食、刻 み食、ミキサー食などで対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ対策には加湿器の設置や来訪者には手荒い、うがいを実施してもらい、消毒関係にはマニュアルで対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は高熱乾燥機を利用し、調理器具等は毎日の夜勤帯で消毒している。食材は生協を主食材として野菜は近隣のスーパーからの配達や買い物でまかなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手すり付きのスロープやバリアフリーの玄関で外出を容易にしている。玄関には暖かい雰囲気を出すため季節の花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室には造花などで暖かさを出す工夫をしている。リビングには通信、レクタイムでの作品、季節感のある物の掲示、手作りのカレンダーなどで暖かさを演出している。	○	職員でアイデアを出し合い季節感、生活観のある雰囲気作りに努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファー、カウンター席などそれぞれにお気に入りの席があり居場所感になっていると思われる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳に布団、ベッドとソファなど慣れた生活スタイルで安心感を得てもらい、本人の馴染みの家具など危険物以外は自由に持ち込んでいただいている。	○	本人や家族と相談しながら居心地よさをもっと追及していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングは南向きで大きく開閉できるため必要に応じて換気が容易であり、冬場は床暖房で冷え込むことがなく、温湿度計で確認してこまめにエアコンで調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全て段差がなく手すりの設置はこまめにあり、浴室、トイレには手すりに分かり易い色の滑り止めを付けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレなどは分かりやすい表示をして自立を促している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキ、芝生の庭、畑などがあり、季節を感じてもらえる野菜や花を家族の協力を得て入居者と一緒に取り組んでいる。	○	建物の周りの環境（ウッドデッキや芝生）をもっと活用していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の進行を遅らせる事、身体機能が低下しない事、穏やかに暮らす事を優先課題として、どの様に取り組むかということに重点を置いている。
 毎朝の体操、書写及び音読、毎日のレクタイムの習字や生け花、抹茶などを積極的に取り入れる事で残存能力の維持に力を入れている。
 穏やかに暮らすためには、日々の暮らしの中でたとえ小さなことでも役割を持つ事の大切さを十分に意識して、各入居者にあった『出来る事』を見つけ出し、提供して達成感を感じてもらえるようにしている。